

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	名古屋市西部地域療育センター		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 8日 ～ 令和7年 1月 22日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 20日 ～ 令和7年 1月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小児科医をはじめ、多くの専門職があり、いろいろな視点から子どもの支援を考えることができる。	子どもへの支援について、センター全体でのケース会議や、専門職の助言を得ながら療育プログラムや児童発達支援計画を作成しています。 また、職員は専門職からの指導の機会を作っています。	専門職による保護者向けの研修の機会を増やしたり、より相談しやすい形を整えていきます。
2	クラス分けを行い、いつも同じ職員、同じ子どもたちの環境の中でのステップアップが目指していける。	担任間での情報共有を行い、子どもたちの発達に合わせた取り組みを継続的に行えるようにしています。	専門職の助言も得ながら、より丁寧に細やかな支援ができるよう努力したいと思います。
3	看護、医療職が常勤しており、医療的ケアにも対応できる。	主治医である医療機関との連携を図り、保護者との情報共有を行いながら、安心、安全な医療的ケアが提供できるようにしています。	今後も、安心、安全な医療的ケアに向け医療機関との連携や、保護者との情報共有を行っていききたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の老朽化	開所後31年を経過し、老朽化している箇所や、使いづらさを感じる場所があります。	必要な予算要求を行いながら順次修理などを行う。 利用者がケガ等をする事がないよう配慮していきます。
2	広いエリアであるが、通園バスが1台での運行となっており、利用者のニーズに応えられていない。	親子登園日のみマイクロバスを借り上げ、2台での運行としています。	バスの増車を行い、必要な場所への運行ができるように努力していききたいと思います。
3			